



(一般屋内用)

iDシリーズ 非常用照明器具 (電源別置型)

保管用

適合ライトバー	品番
69001mタイプ	NNL(H)4605GN
52001mタイプ	NNL(H)4505GN
40001mタイプ	NNL(H)4405GN
32001mタイプ	NNL(H)4305GN
25001mタイプ	NNL(H)4205GN
20001mタイプ	NNL(H)4105GN

適合器具本体	品番
DスタイルW230	NNLG(H)48123
反射笠付型W150	NNLG(H)48117

- ・上記()内は加工品番です。以降、加工品番の記載を省略します。
- ・本照明器具は、パナソニック製非常用照明器具本体と非常用照明器具ライトバーの組み合わせで性能を満足します。
- ・適合器具本体と適合ライトバーの組み合わせは、承認図・カタログを参照してください。
- ・適合器具本体と適合ライトバーは、非常用照明器具専用です。常用照明器具の器具本体、ライトバーとの組み合わせはできません。

・器具の施工には電気工事士の資格が必要です。施工は必ず工事店に依頼してください。

施工説明

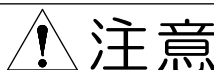
工事店様へ、この説明書は保守のためお客様に必ずお渡しください。

安全に関するご注意



警告

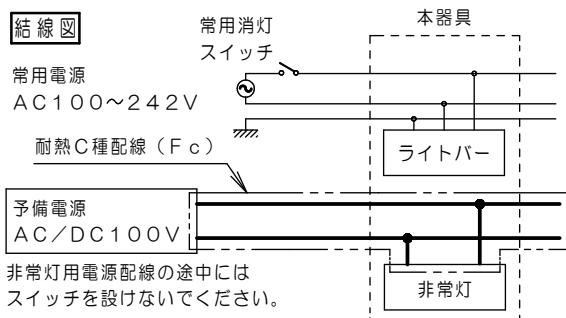
- 施工は、施工説明にしたがい確実に。施工に不備があると落下・感電・火災の原因となります。
- 器具、光源部の分解、改造をしない。落下・感電・火災の原因となります。
- ライトバーを単独で使わない。必ずパナソニック製iDシリーズ非常用照明器具本体(以降、本体)と非常灯専用ライトバー(以降、ライトバー)の組み合わせで使用。落下・感電・火災の原因となります。
- 表示された電源電圧(定格電圧±6%)・周波数で使用する。
- 指定外の電源電圧・周波数で使用すると、感電・火災の原因となります。(常用電源)
- 表示された電源電圧(AC100±6V、DC100V(変動範囲DC90V~145V))・周波数(AC駆動時)で使用する。
- 指定外の電源電圧・周波数で使用すると、感電・火災の原因となります。(予備電源)
- 水平天井取付専用です。他の取り付けはしないでください。落下の原因となります。
- 非常灯回路の途中にはスイッチを設けない。非常点灯しない原因となります。
- 非常用光源部のレンズはガラス製のため、取り扱いに注意。破損によるけがの原因となります。
- ライトバーのカバーは樹脂製のため、取り扱いに注意。破損によるけがの原因となります。
- 万一、破損した場合、すぐに電源を切り交換してください。
- ライトバーが破損した状態で使わない。落下・感電・火災の原因となります。



注意

- この器具は一般屋内専用です。直射日光の当たる場所、雨水のかかる場所、風の強い場所、湿気が多い場所、腐食性ガスの発生する場所、振動の強い場所、粉じんの発生する場所、外の風やエアコンの冷風が直接当たる場所では使用しないでください。落下・感電・火災の原因となります。
- 一般屋内でご使用の場合でも、器具周囲に硫黄成分が存在する場所では使用しないでください。光学性能に影響を与える場合があります。(一部の食品や薬品、紙類などには硫黄成分が含まれます。また、車の排気ガスにも硫黄成分が含まれます。)
- 周囲温度は、5~35℃で使用してください。
- 指定外の周囲温度で使用すると、ちたつき・短寿命および非常点灯しない原因となります。
- エンド面には電源穴がありませんので、電源線の器具間送り配線は天井裏に電源線を戻して配線してください。
- 電源方式により騒音(うなり)が大きくなる場合がありますので、以下の配線を行ってください。(常用電源)
 - ・三相電源を使用する場合は、必ず接地側を器具の端子台のN側に接続してください。
 - ・電源と器具間に片切りスイッチを設ける場合は、必ず非接地側(充電側)に取り付けてください。
- ライトバーのカバーはポリカーボネート製のため、直射日光の当たる場所や蛍光灯が近接する場所などの紫外線の多い場所、ヘキサゴンやアセトンなどの有機溶剤が使用される場所では使用しないでください。カバーの劣化・破損の原因となります。
- 器具の取り付け、取り外しは手袋などの保護具を使用してください。けがのおそれがあります。
- 非常用光源部を常用点灯しないでください。火災および非常時点灯しない原因となります。
- この器具の電源配線は、下図を参照してください。

結線図



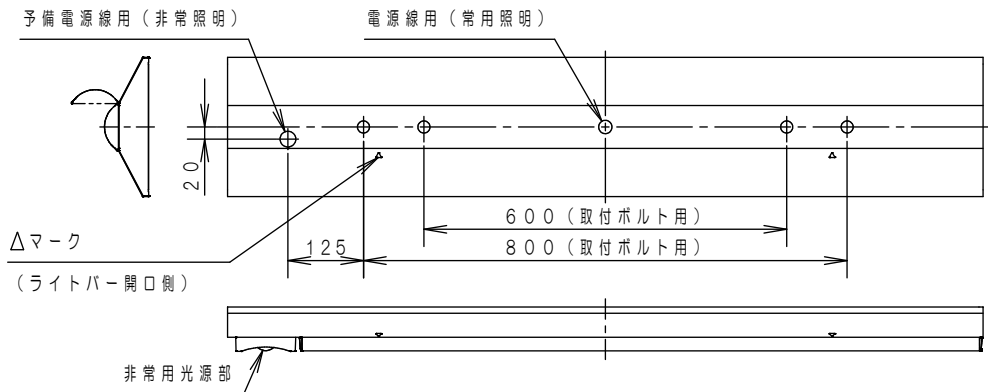
・予備電源線は耐火措置を行うか、耐火電線をご使用ください。また、電源線は $\phi 1.6$ 、 $\phi 2.0$ の単線をご使用ください。より線は使用できません。

・非常灯部には専用電源を接続してください。常用電源に接続し、常用点灯で使用すると、火災や非常点灯しない原因となります。

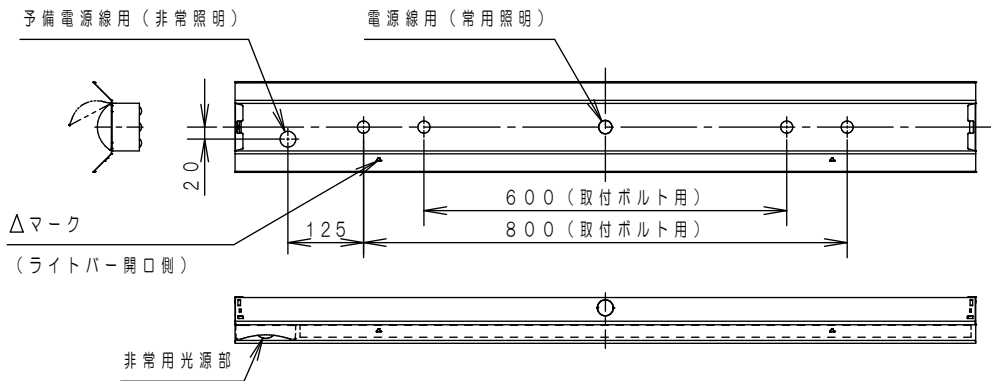
器具背面図

• 本体の取付方向により、非常用光源位置、ライトバー開閉方向が決まります。

< Dスタイル W230 >

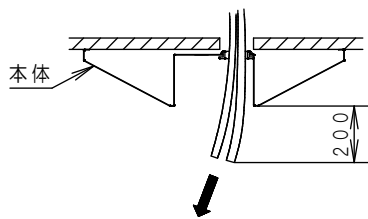
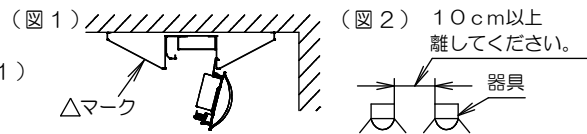


< 反射笠付型 W150 >

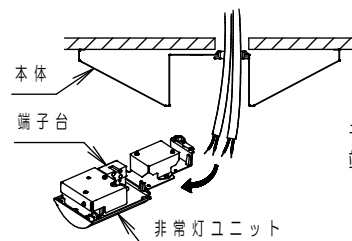


施工上のご注意

- ライトバーの取り付けには方向性があります。壁面付近に取り付ける場合、本体の△マークを室内側にしてください。(図1)
- 器具を密集して取り付けないでください。密集させて取り付けると、過熱により故障の原因となります。(反射笠付型の場合)(図2)
- エンド面には電源穴がありませんので、電源線の器具間送り配線は天井裏に電源線を戻して配線してください。
- ほこりの多い場所で使用される場合は、カバー内にほこりが推積する場合があります。このような場合は直管LED非常用照明器具などの器具をおすすめします。
- バーコードリーダーの機種によっては器具付近で使用した場合、読み取り感度が鈍くなることがあります。この場合には、器具との距離を離すか遮蔽するなどの対策を講じてください。
- 虫の飛来が多い場所で使用される場合は、ライトバー内に虫が侵入するおそれがあります。このような場合は、直管LED非常用照明器具などの器具をおすすめします。
- 非常灯部の施工(予備電源線接続)は電線を引き出して行う必要があります。下図を参照して、電線長に余裕があるか事前にご確認ください。

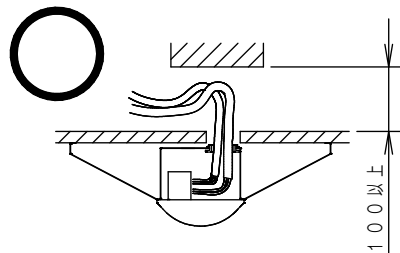
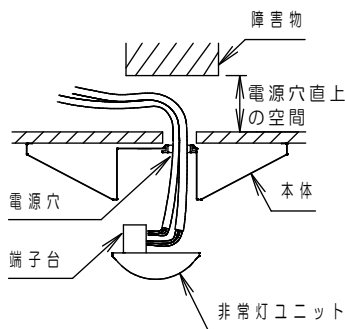


非常灯部への接続のため予備電源線が200mm程度引き出せること(送り線含む)

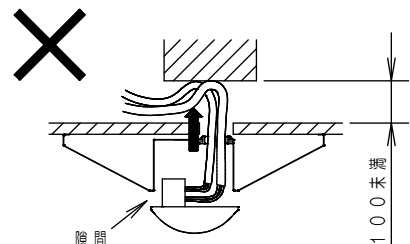


予備電源線の先端を剥き、端子台に接続する。

- 予備電源線の引き込み穴から余分となった電源線を天井裏に押し戻すため、天井裏には障害物が無いようにしてください。



予備電源線接続後、余分となった電源線が天井裏に押し戻せること。(電源穴直上は100mm以上の空間があること)



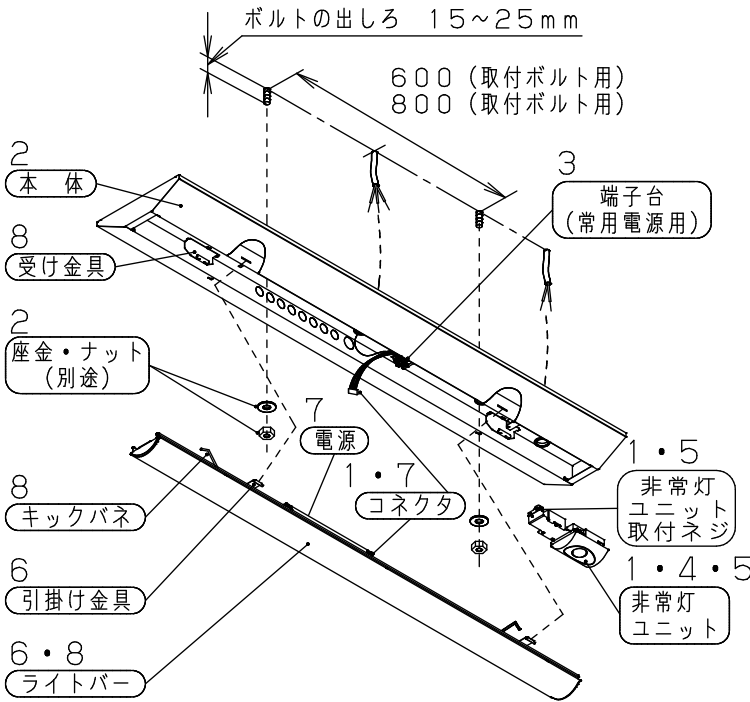
天井裏が狭いと予備電源線が押し戻せず、施工できません。(隙間の原因となります)

各部のなまえと取付方法

警告

施工は、施工説明書にしたがい、確実に行う。
 施工に不備があると、落下・感電・火災の原因となります。
 ライトバーの取り付け・取り外しは必ず電源を切る。

【NNLG48123+ライトバーの例で説明しています。】



1 取付前の確認

- 既設器具取替の場合、周辺機器の電気容量を確認する。
- 器具質量 (2.8kg: NNLG48123+ライトバーの場合) に十分に耐えるよう、取付ボルトの強度を確保する。
 (取付ボルトは、W3/8またはM10を使用する。)
 不備があると器具落下・感電・火災の原因となります。
- 本体に仮止めしているコネクタと非常灯ユニット取付ネジを緩めて非常灯ユニットを取り外す。

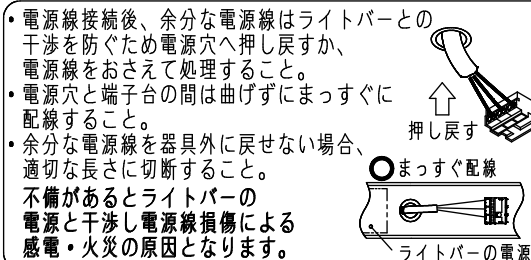
2 本体の取付

- 電源線、アース線、予備電源線を本体の電源穴から引込んでおく。
 (予備電源線は耐火措置を施すか、耐火電線を使用する。)
- 本体を取付ボルトで確実に取り付ける。
 (取付ボルト推奨トルク値: 1.5N・m)
- 取付穴はφ20となります。適切な座金サイズをご使用ください。
 不備があると器具落下の原因となります。

3 常用照明 (ライトバー) の電源線・アース線の接続

- 電源線、アース線を確実に差し込む。
- D種 (第3種) 接地工事が必要。
- 端子台の最大送り容量は右表のとおりです。
 接続が不完全な場合や容量オーバーの場合、
 火災の原因となります。

明るさタイプ	容量
6900lmタイプ	12A
5200lmタイプ	13A
4000lmタイプ	14A
3200lmタイプ	20A
2500lmタイプ	20A
2000lmタイプ	20A

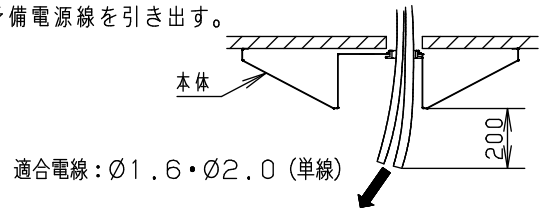


適合電線 (単線)
 φ1.6・φ2.0
 ストリップ長
 10~14

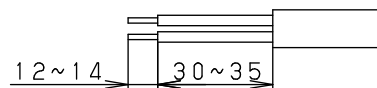
4 非常灯ユニットの接続

- 予備電源線を非常灯ユニットの端子台に確実に差し込む。
- 端子台の最大送り容量は20Aです。
 接続が不完全な場合や容量オーバーの場合、
 火災の原因となります。

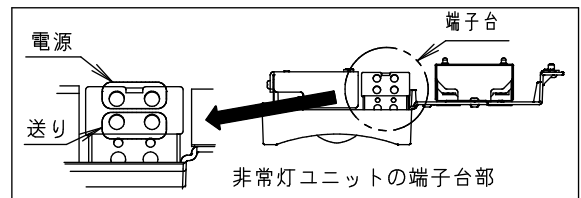
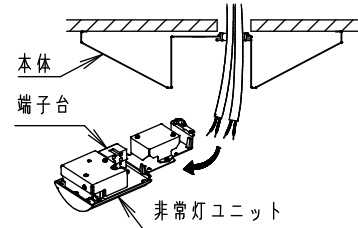
① 予備電源線を引き出す。



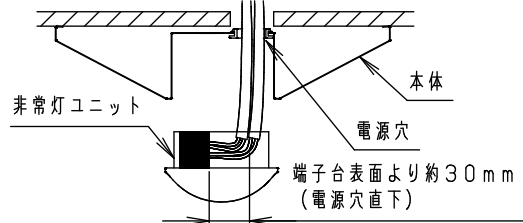
② 予備電源線の先端を下図の様に加工する。



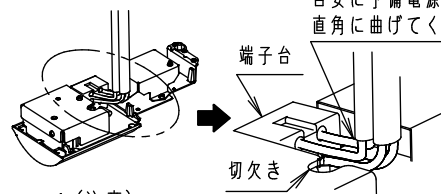
③ 予備電源線を非常灯ユニットの端子台に接続する。



④ 予備電源線を直角に曲げて、本体の電源穴直下で垂直になるように位置を整える。

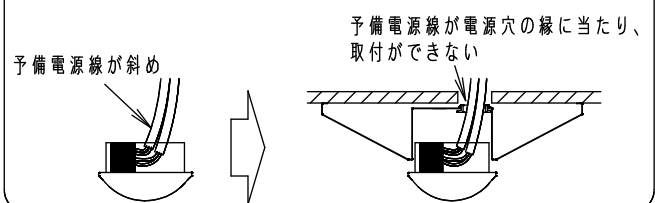


非常灯ユニットの切欠きを
 目安に予備電源線が垂直になるよう
 直角に曲げてください。



(注意)

- 予備電源線と送り用の予備電源線をあわせて電源穴に通す場合、ねじれなきこと。
 電源穴に干渉し、非常灯ユニットが正常に取付できません。
- 予備電源線が非常灯ユニットに対して、直角になっていない場合、電源線の位置を直角に調整してください。
 電源線が電源穴に干渉し非常灯ユニットが正常に取り付けできません。

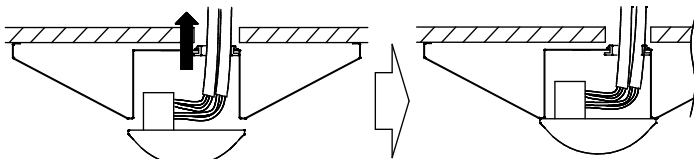


各部のなまえと取付方法（続き）

5 非常灯ユニットの取付

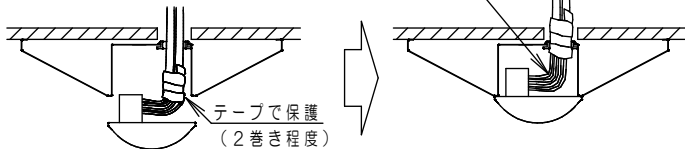
取り付けが不完全な場合、非常灯ユニット落下の原因となります。

① 非常灯ユニットを押し上げる。（予備電源線を押し戻す）



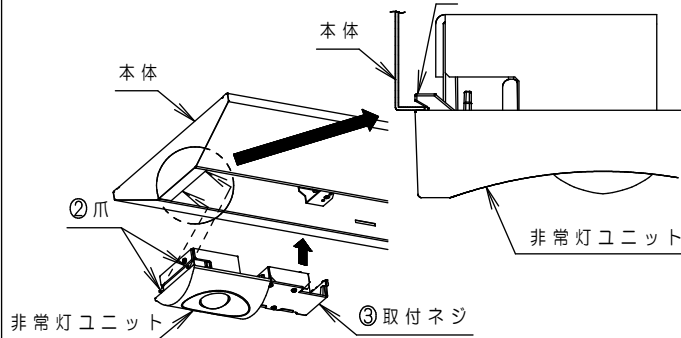
被覆を剥いた部分が長いと取付後に器具外に露出することがあります。その場合は絶縁テープ等で保護してください。

被覆を剥いた部分が天井裏で露出しない

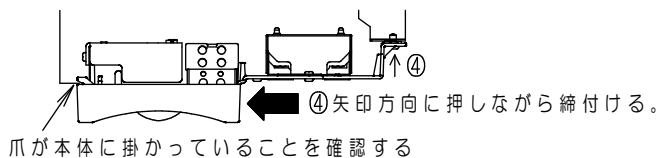


② 爪を差し込む。

③ 取付ネジの位置を合わせる。

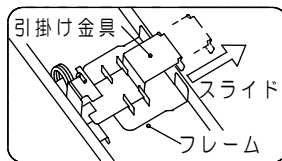


④ 非常灯ユニットを矢印の方向に押しながら、取付ネジを確実に締付ける。



6 ライトバーの引掛け

- ・ライトバーの引掛け金具をフレームに当たるまでスライドさせ、本体の角穴に片側ずつ確実に引掛ける。
- ・取り付けが不完全な場合、ライトバー落下の原因となります。



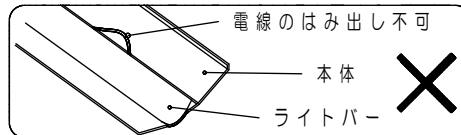
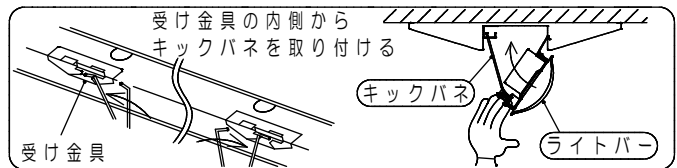
7 コネクタの接続

- ・本体とライトバーのコネクタを確実に接続する。
- ・『カチッ』と音がするまではめ込んでください。
- ・接続が不完全な場合、火災の原因となります。



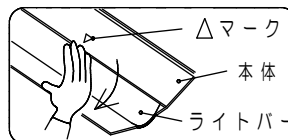
8 ライトバーの取付

- ・ライトバーのキックパネを本体の受け金具に確実に取付ける。
- ・電線を挟まないようライトバーを本体内へ押し上げる。
- ・不備があると、ライトバー落下・感電・火災の原因となります。



■ライトバーを取り外す場合

1. 本体の△マークを目印に、手でライトバーを引き下げる。工具でこじ開けると、ライトバー破損の原因となります。
2. キックパネを本体の受け金具から外す。
3. コネクタを外す。
4. ライトバーの引掛け金具を本体から外す。



・ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みのうえ、正しくお使いください。

安全に関するご注意



警告

- 器具、光源部の分解、改造をしない。落下・感電・火災の原因となります。
- 布や紙など燃えやすい物でおおわない。落下・感電・火災の原因となります。
- 万一、煙が出たり、異臭がするなどの異常が発生した場合、すぐに電源を切り、工事店に修理を依頼する。そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。
- 必ずパナソニック製 iD シリーズ 非常用照明器具本体と非常灯専用ライトバーとの組み合わせで使用。落下・感電・火災の原因となります。
- ライトバーの取り付け・取り外しは、必ず電源を切る。感電の原因となります。
- 非常用光源部のレンズはガラス製のため、取り扱いに注意。破損によるけがの原因となります。
- ライトバーのカバーは樹脂製のため、取り扱いに注意。破損によるけがの原因となります。万一、破損した場合、すぐに電源を切り交換してください。
- ライトバーが破損した状態で使用しない。落下、感電、火災の原因となります。



注意

- 光源として高輝度LEDを使用しています。長時間の直視は避けてください。
- シンナー、ベンジン、アルカリ系洗剤で器具を拭かないでください。変色、変質、強度低下による破損の原因となります。水または中性洗剤を用いて、汚れた部分を軽く拭き取ってください。
- 照明器具には寿命があります。(※1)法令に基づいて定期的に点検を実施してください。点検せずに長時間使い続けるとまれに落下・感電・火災などに至る場合があります。
※1 照明器具は、使用条件、使用環境で異なりますが、8～10年が取り替えの時期の目安です。ただし、使用条件は周囲温度30℃です。
- 一年に一回は「安全チェックシート」に基づき自主点検してください。3年に1回は工事店等の専門家による点検を受けてください。必要な場合は弊社営業所へお申し出ください。(チェックシート番号：CLX2021HA)
点検せずに長時間使い続けるとまれに落下・感電・火災に至る場合があります。

- LED光源の寿命は40,000時間です。非常用光源の寿命は2,000時間です。周囲温度が高い場合・点灯時間が長い場合など寿命が短くなります。点灯出来るからといって継続して使用が可能というわけではありません。

使用上のご注意

- ・ラジオ、テレビや赤外線リモコン方式の機器は照明器具から離して使用してください。雑音が入ったり、正常に動作しない場合があります。
- ・同時通訳機などの誘導無線を使用される場合、雑音が入る場合があります。事前に確認し、対策を講じてください。
- ・周囲温度が高い場合・点灯時間が長い場合などは寿命が短くなります。
- ・LED素子にはばらつきがあるため、同じ品番のライトバーでも光色・明るさが異なる場合があります。あらかじめご了承ください。
- ・電源電圧変動などの影響により瞬間的に明るくなったり暗くなったりする場合があります。あらかじめご了承ください。
- ・点灯直後・消灯直後にプラスチックの伸縮によるきしみ音が発生する場合がありますが、故障や異常ではありません。静かな環境や密集取り付け・密閉取り付けでご使用の場合、きしみ音が気になる場合があります。このような場合は直管LEDなどのプラスチック製カバーのないタイプをおすすめします。
- ・点灯させる際に、明るくなるまでの時間や動作がライトバーの品種により異なる場合があります。あらかじめご了承ください。

保証について

- ・保証について・・・・・・・・・・この商品の保証期間は1年間です。ただし、LED電源は3年間です。詳細は弊社カタログを参照してください。
- ・保証書について・・・・・・・・・・保証書が必要な場合は、弊社代理店または弊社営業所へ申し出てください。
- ・補修用性能部品の保有期間・・・弊社はこの照明器具の補修用性能部品（電気部品）を製造打ち切り後、6年間保有しています。補修用性能部品には、同等機能を有する代替品を含みます。

お手入れ

- ・器具の清掃について・・・・・・水または中性洗剤を用いて、汚れた部分を軽く拭き取ってください。シンナー、ベンジン、アルカリ系洗剤で拭かないでください。変色・変質、強度低下による破損の原因となります。



警告

- お手入れ時は、必ず電源を切ってください。感電のおそれあり。
- ライトバーのカバーは樹脂製です。取り扱いに注意してください。カバー破損のおそれあり。
- 非常用光源部のレンズはガラス製です。取り扱いに注意してください。レンズ破損のおそれあり。
- 点灯中や消灯直後はライトバーやその周辺をさわらないこと。やけどのおそれあり。

◆定期点検 3ヶ月に1回は、破損・変形などの外観の点検をおすすめします。
6ヶ月に1回は、外観点検と機能点検を併せて行なってください。
(点検については、誘導灯は消防法令、非常用照明器具は建築基準法令に定められていますので必ず実施してください。)

◆設置年月日 年 月 日 ◆取付場所 _____ ◆器具N o. _____

点検年月日	点検状態		点検者	点検年月日	点検状態		点検者	点検年月日	点検状態		点検者
	外観	機能			外観	機能			外観	機能	

器具定格・接続図

定格

●ライトバー部

明るさタイプ	6900lmタイプ		
定格電圧	AC100V	AC200V	AC242V
入力電流	0.436A	0.218A	0.181A
消費電力	43.1W		

明るさタイプ	5200lmタイプ		
定格電圧	AC100V	AC200V	AC242V
入力電流	0.328A	0.163A	0.135A
消費電力	32.5W		

明るさタイプ	4000lmタイプ		
定格電圧	AC100V	AC200V	AC242V
入力電流	0.275A	0.136A	0.113A
消費電力	26.7W		

明るさタイプ	3200lmタイプ		
定格電圧	AC100V	AC200V	AC242V
入力電流	0.209A	0.104A	0.087A
消費電力	20.6W		

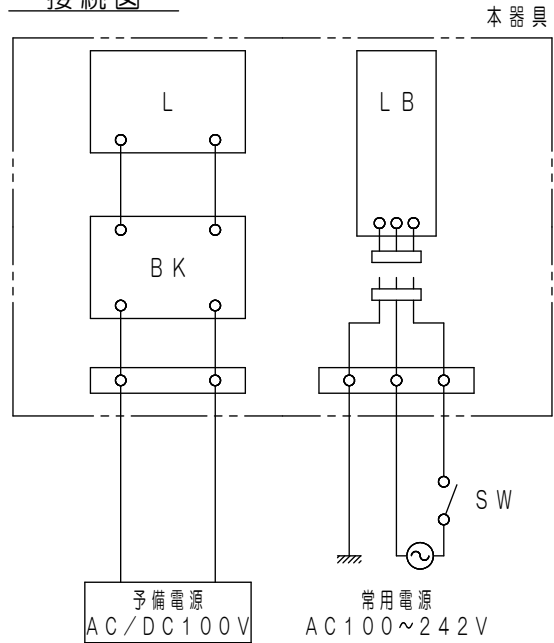
明るさタイプ	2500lmタイプ		
定格電圧	AC100V	AC200V	AC242V
入力電流	0.163A	0.082A	0.070A
消費電力	16.3W		

明るさタイプ	2000lmタイプ		
定格電圧	AC100V	AC200V	AC242V
入力電流	0.134A	0.069A	0.059A
消費電力	13.1W		

●非常灯部（本体部）

定格電圧	AC100V	DC100V
入力電流	68mA	
消費電力	6.6W	
入力容量	6.8VA	-
力率	高力率	

接続図



部品の記号と名称

LB：ライトバー BK：ブロック
L：非常灯LED SW：常用消灯スイッチ

パナソニック株式会社 ライティング事業部 〒571-8686 大阪府門真市門真1048

お問い合わせ先 パナソニック 照明器具・ランプ商品ご相談窓口 <https://sumai.panasonic.jp/support/>

0120-187-441(フリーダイヤル)【受付時間】月～土/9:00～18:00(祝日・三が日を除く) ※携帯電話からもご利用になれます。

0120-872-460(FAX) [Help desk for foreign residents in Japan Tokyo (03) 3256-5444 Osaka (06) 6645-8787 Open: 9:00 - 17:30 (closed on Saturdays / Sundays / national holidays)]